

## 平成24年度 第2回公立能登総合病院協議会 記録

【日 時】 平成25年3月1日（金） 午後3時から午後4時20分まで

【場 所】 公立能登総合病院 会議室（3階）

【出席者】 21名（委員9名、当院10名、事務局2名）

（委員） 松木会長、小林委員、小川委員、荒巻委員、和田委員、宮川委員、星場委員、清水委員、佐原委員

（当院） 川口事業管理者、藤岡病院長、池野看護部長、出村経営本部長、丸岡総務課長、寺尾管理課長、谷診療支援課長、坂本地域医療支援副センター長、水口経営企画課長補佐、田辺専門員

（事務局）羽石専門員、宮本主事

### 【内容】

#### 1 開会のあいさつ

##### <川口病院事業管理者>

本日は、お忙しいなかお集まりいただきまして誠にありがとうございます。  
当協議会は、能登総合病院を運営するにあたり、住民の皆さまのご意見をいただく場を設けようと開催しております。

本日の協議会では、能登総合病院の経営状況等を報告するなかで、委員の皆さまからのご意見を何なりと受け賜りたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

#### 2 議件

##### <松木会長>

本日は、お忙しいなかお集まりいただきましてありがとうございます。  
本日の協議会では、今後の能登総合病院の運営の参考になるよう、委員の皆さまには建設的なご意見をよろしく願いいたします。

#### （1）公立能登総合病院の経営状況等について

- 平成24年度の診療報酬改定は0.004%増と、病院経営には大変厳しいものとなったが、職員の努力のおかげで今年度も良い方向にきている。
- 病院経営とは、病院価値の創造である。患者、医療機関、職員、社会に対する価値創造が病院経営には必要であり、利益は価値創造の原資である。能登総合病院は、地域住民の価値創造のために利益を生む病院経営をしていかなくてはならない。
- 平成24年度の事業計画は、コンビニエンスストアの設置、診療棟等の増築がメインであり、予算上は1億円程度の黒字を目標としている。
- コンビニエンスストアについては、平成24年12月14日（金）に完工式を行った。ローソンが入ることになり、地域住民及び当院職員に喜ばれている。
- 診療棟等の増築については、透析室及び内視鏡室の拡張のほか、会議室や職員休憩室が作られ、平成25年3月21日（木）に竣工式を行う予定である。
- これまで、診療収入を増加するために診療単価の増加に取り組んできた。このことが黒字化に結びつき、平成23年度の事業収支は2億3,275万円の黒字となった。
- 今年度の診療収益は、8月、9月以外は昨年度を上回っている。8月、9月が低調になったのは、診療単価が下がったため、季節的な要因が関係し

ていると思われる。今後とも、診療収入増加のために、入院では在院日数の短縮や手術件数の増加に力をいれ、外来では一般外来のスリム化を促進し、見落としのない診療やクレームの減少に取り組んでいきたい。さらに、地域医療支援病院承認に向けての活動も強化していきたい。

- ・ 次年度予算では、精神センターの増築のほか、放射線治療システムや4列CTの更新を予定している。また、平成26年度には電子カルテシステムの更新も予定しており、医療機器の更新が目白押しとなってきている。今後は減価償却費が増加することや、消費税の増税など経営状況は大変厳しくなることが予想される。しかし、平成17年度には約14億円の赤字であった当院が、職員一丸となって危機を乗り越えてきた。これからも自信を持って経営に取り組んでいく。
- ・ 今年度で七尾鹿島広域圏事務組合は解散となり、能登総合病院は七尾市立となる。しかし、七尾市立になったとしても、地方公営企業法の全部適用を維持し、企業性を発揮していく。

#### <佐原委員>

現在使用している電子カルテは、いつ導入したのか。

→ 平成17年に導入している。現在は富士通のシステムが入っているが、今後どのようなシステムを導入していくかについては、これから決めていく。

#### (2) 能登地域認知症ネットワーク推進事業の取組みについて

- ・ 能登地域の精神科医療の現状は、市立輪島病院、珠洲市総合病院、公立宇出津総合病院に週1～2回当院医師が派遣され外来診療を行っている。その他には、穴水町に1か所クリニックがあるのみ。入院は当院を含め、能登地域に2か所ある。しかし、内科などの病気がある身体合併症の患者は、当院しか対応できない状況になっている。
- ・ 能登地域認知症ネットワーク推進事業では、石川県地域医療再生計画の一環として、能登全域における認知症診療の充実を目指している。当事業は、能登地域における精神科医療の現状を把握している当院が中心となって取り組んでいる。
- ・ 事業内容としては、認知症対策プロジェクト委員会の参加、医療関係者や介護関係者との意見交換会、出張出前講座、物忘れ相談プログラム（タッチパネル）による調査及び機器の貸出し等がある。
- ・ 平成22年度は介護関係機関、平成23年度は訪問看護等に認知症の患者状況等のアンケート調査を行い、認知症の実態調査に努めた。
- ・ 次年度は、認知症自己チェックリストを用いた広報活動をとおして、認知症の早期発見、認知症患者の対処方法の普及を目指していく。

#### <和田委員>

認知症を多くの人に理解してもらうには、認知症サポーターを増やすことが大切だが、そのような取組みはしているのか。

→ 七尾市医師会、七尾市在宅医療を考える会、七尾市認知症対策プロジェクト委員会の共催で、認知症サポーター養成講座を月に2～3回開催している。

#### <和田委員>

私が所属している七尾市各種女性連絡協議会のメンバーの中にも、認知症サポーターに興味がある人が多いので、機会があればぜひ参加したい。また、何か手伝えることがあればできる限り協力していきたい。

#### <星場委員>

タッチパネルのテストでは15点が満点のようだが、何点から危なくなるのか。

→ 12点以下なら、医師の診察を勧めるようになってきているが、タッチパネルはあくまで簡易型のテストなので、場合によってはより詳細な診断を受けてもらう場合もある。

### (3) 地域医療支援病院承認の取組みについて

- ・ 地域医療支援病院制度は、平成9年4月から制度化された。2次医療圏に1か所以上存在することが望ましいとされているが、県内でも3病院しか承認されておらず、能登中部医療圏では承認された病院がない。
- ・ 地域医療支援病院に承認されることで、患者には、安定した急性期医療の確保、待ち時間の短縮、経済的負担の軽減等のメリットがある。また、地域医療機関にも受診患者の確保、患者満足度の向上、高額医療機器等の利用等のメリットがある。
- ・ 地域医療支援病院に承認されるにはいくつかの要件が必要だが、その中で本院が一番苦勞しているものが、紹介率40%以上、かつ逆紹介率が60%以上になることである。
- ・ 紹介率を上げる対策として、初診算定期間の見直し、医療機関の訪問、開放病床の利用促進、高額医療機器共同利用の促進を実施している。
- ・ 逆紹介率を上げる対策として、退院困難患者の支援、勤務医に対する逆紹介の推進、かかりつけ医のパンフレット配布等を実施している。
- ・ 平成23年度から比較すれば、紹介率は15.5%から28.5%に、逆紹介率は23.8%から36.9%からに改善されたが、目標にはまだ届いておらず、今後も精力的に取組みをしていく必要がある。

#### <荒巻委員>

紹介率を上げる取組みとして、患者に対しては具体的に何かしているのか。

- 2人主治医制について、医師をとおして説明してもらっている。また、2人主治医制についての内容を領収書の裏等に掲載し、広報活動を行っている。

#### <荒巻委員>

あまり病院の診察にかからない人にとっては、1か所で複数の診療科がある能登総合病院に行こうという人が多くいるように思う。まだまだ住民には2人主治医制が浸透していないように感じられるので、これからもっとPRしていかないとけない。

#### <佐原委員>

県内で地域医療支援病院に承認された病院は、何か特別な取組みをしたのか。

- 承認された病院では、初診算定期間の見直しにより、紹介率が40%を超えた。本院と地域医療支援病院に承認された病院とでは、地域性が大きく違うことから、その影響が大きいと思われる。

### (4) 質疑応答・意見交換

#### <佐原委員>

金沢大学病院CPDセンターと連携し、講演会や研修等をテレビ中継する予定はあるか。

- 現在は、がんプロの活動でテレビ会議形式を取っている。今後は、体制が整い次第テレビ中継での講演会や研修の対応をしていく。

#### <佐原委員>

電子カルテの患者情報を開業医と共有する地域医療連携システムの導入予定はどうなっているのか。

- 県の地域医療再生交付金を使い、事業を推進していく予定である。システムについては他の病院がNECのシステムを多く導入していることから、能登総合病院もそれに合わせる方向に決定している。

#### <和田委員>

地域医療支援病院承認の取組みに力を入れているとの話があったが、経営陣と現場との間でギャップがあるのではないか。以前の協議会でも話しをしたが、能登総合病院の職員は、対応が良くない、笑顔が少ないという話を聞いている。フロアマ

ネージャーの配置等で接遇向上に力を入れていると思われるが、さらに住民が安心でき、身も心も健康になれるような病院を目指してほしい。

#### <小林委員>

広報誌「陽だまり」で、糖尿病患者会「とうの会」の記事があったが、どういう組織なのか。

→ とうの会は、糖尿病の患者同士が励ましあい、情報を共有していくことを目的に患者が自主的に立ち上げた組織となっている。入会に関しては、当院の職員をとおして手続きを行っている。

#### <荒巻委員>

外来のスリム化を目指しているが、外来患者の減少で収入が減るのではないか。

→ 簡単な検査や薬の処方のみで対応できる高血圧等の疾患については、開業医に任せなさいというのが厚生労働省の方針であり、診療報酬の点数についても、そのように配分されている。そのため、どんどん外来患者を受け入れたからといって、収益が得られるという仕組みにはなっていない。また、外来のスリム化によって診療の見落としが無くなり、必要な検査がしっかりできるため、診療単価の増加につながる。

#### <和田委員>

急性期医療を担う病院として、忙しくても救急車の受け入れができないということとはあってはならないことである。今後、そのようなことが起きないように取り組んでほしい。

#### <佐原委員>

救急車の受け入れ問題については、能登総合病院だけの問題でなく、慢性期患者の受け入れ先がないことや、在宅医療が進んでいないことなどが挙げられる。この問題をどうにかしないと根本的な解決にはつながらない。七尾市と医療機関全体で解決に取り組んでいく必要がある。

### 3 その他

#### (1) 新たな病院づくりへの挑戦（新聞報道等）について

- ・ 今年度の能登総合病院の新聞記事等の報道をまとめましたので、ご一読いただければと思います。

### 4 閉会のあいさつ

#### <藤岡病院長>

本日は、長時間にわたりご協議をしていただきありがとうございました。当院は皆さまのご協力のおかげで、今年度も良好な経営状況を維持できそうです。本日、委員の皆さまからいただきましたご意見を真摯に受け止め、さらに質の高い医療サービスの提供ができるよう取り組んでまいりますので、引き続き温かいご支援をお願いいたします。

本日は、本当にありがとうございました。

(午後4時20分閉会)